

新潟市文化財センター年報

第2号

—平成25（2013）年度版—

2015

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第2号

—平成25（2013）年度版—



西区 四十石遺跡出土腰帯金具（SX71出土）

2015

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）は、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村の広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



新潟市文化財センター外観

例 言

- ・本書は、文化財センター及び文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財担当（以下「埋蔵文化財担当」）で実施した埋蔵文化財に係る平成25年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに史跡古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノート等の研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』は平成25年から刊行され、本書は第2号にあたる。文化財センター開館までの新潟市（以下「本市」）の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号に記載されている。
- ・本書は文化財センター・埋蔵文化財担当職員が中心になり、分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が若干の字句の修正を行った。
- ・本書に記載されている施設名及び肩書き等については、本書刊行当時のものである。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の試掘・確認調査、本発掘調査、工事立会は主要なもののみを掲載した。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の各概要及びⅤ4・5の図1「調査位置図」は、国土基本図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、地図の上位が北である。Ⅱ2（11）の図6についても同様な基準で地図を掲載したが、縮尺は5,000分の1である。
- ・図・表番号は、各章ごとに1から付けている。しかし、Ⅱ2、Ⅲ2は概要ごとに、Ⅴは節ごとに番号がついている。
- ・掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は金田拓也が主に行い、八藤後智人・渡邊朋和が補佐した。

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成25年度の前審査に係る試掘・確認調査の概要	7
Ⅲ 文化財センターの事業	36
1 本発掘調査の概要	36
2 平成25年度の本発掘調査	37
3 整理作業の概要	46
4 資料の収蔵・保管	47
5 資料の公開・活用	48
6 教育普及活動	49
7 保存処理	54
8 決算額	55
Ⅳ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場	56
1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要	56
2 教育普及活動	58
3 古津八幡山古墳復元整備の概要	59
Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート等－	60
1 佐渡近海発見の弥生土器	60
2 海揚がりの須恵器2点	61
3 新潟市秋葉区舟戸遺跡出土遺物	62
4 新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物	66
5 新潟市北区正尺C遺跡出土の土師器鉢	67
6 新潟市江南区砂崩遺跡の縄文時代遺物－神林慎一氏採集資料から－	68
7 アスファルト精製実験について	73
8 平成26年度古津八幡山遺跡における古代米及び畑作物の栽培実験について	75
引用・参考文献	77